

ドーピング・スキャンダル内幕・・・競技にとっての根本的な問題

by Frank Keogh (BBC Sport in Newmarket)

ニューマーケットの噂の話題はなにはさておき競馬だが、今ほど盛り上がったことはない。そう、これは競走馬のドーピング・スキャンダルなのだから。

マームード・アル・ザルーニ調教師が 15 頭の馬にアナボリックステロイドを投与したことを認め、8 年間の資格停止処分を受けてから 2 週間、ニューマーケットの同僚の調教師ジェラルド・バトラーは、英国競馬統括機構 (BHA) から、別の審問を受けていた。彼の厩舎の馬 9 頭が、陽性の検査結果を出したからだ。

.....

これまでの経緯 (時系列で)

2 月 20 日 - ニューマーケットのジェラルド・バトラー厩舎への抜き打ち訪問をおこなった BHA 検査官が、複数の馬が「サンゲート」という薬を処方されていることを発見した。「サンゲート」にはアナボリックステロイドが含まれている。

3 月上旬 - 全国調教師連盟が、BHA の助言に従って、調教師対し、「サンゲート」は使用すべきでない、というメッセージをニュースレターで伝えた。バトラーの検査結果は公表されていない。

4 月 9 日 - ニューマーケットにあるモルトン・パドック厩舎に BHA チームが訪れ、45 頭の馬を検査した。調教師マームード・アル・ザルーニは、ドバイにいる。

4 月 22 日 - ゴドルフィン氏は、午前 18 時 30 分 (英国サマータイム)、BHA による確認後すぐに、マスコミに声明を発表した。無敗で 1,000 ギニー (英国クラシック) 有力馬とされるサーティファイを含む 11 頭の馬が、禁止薬物アナボリックステロイドの陽性だった。アル・ザルーニ調教師が「最悪の過ち」を認める。

4 月 25 日 - アル・ザルーニ調教師は深く反省し、懲戒聴聞会で法的代理人を立てないことを決めて、ドーピングを認めた後、8 年間の資格停止処分を受けた。彼はまた、さらに 4 頭の馬に禁止物質を与えたことを告白し、15 頭の馬すべてが 6 か月間の出走停止処分を受け、10 月 9 日までレースに出られなくなった。

4 月 29 日 - バトラーは、インディペンデント紙とのインタビューで、アナボリックステロイドを投与したことについて BHA の審問を受けていることを明らかにした。これは、負傷した馬を助けるために獣医のアドバイスに従っておこなったことだ、と彼は主張し、BHA も彼の医療記録を認めた。審問は続行中である。

.....

問題とされたのは、アル・ザルーニを雇用したドバイ所有のゴドルフィンの運営方法、レースにおいて薬物使用をどう位置づけていたか、獣医の果たしていた役割、そして、これらの事例が氷山の一角なの

かそれとも特異な事例に過ぎないのかという点、である。

裏切られたクラシックへの期待から、車窓から外に渡されるステロイド入り注射器にいたるまで、まるでディック・フランシスのミステリーのような。

事実とフィクションは切り離して考えよう。

このスキャンダルは広がる可能性があるだろうか？

人によって見方は違うだろうが、短期的には、事例はもうこれ以上見つからないかもしれない。BHA の言によれば、アナボリックステロイドの使用はそれほど広まっておらず、年間を通してランダム・テストを行っているが、このような性質の審理中の事例は、知る限りではない、ということである。

自らの厩舎に約 30 頭の馬を所有するバトラーは、ニューマーケットを本拠とする 100 頭以上の馬が、獣医のアドバイスに従って同じ「サンゲート」で治療を受けていたことは確信できる、と言った。

競馬の内部関係者は、この主張は「下手に事をややこしくした」と言った。次は誰？他にどの厩舎が関わっていたのか？

しかし、他のヤードがこの製品を使用していて、BHA が馬の検査をおこなったとしても、結果は不発に終わるだけだったろう。BHA はレース当日の検査を 7,000~8,000 例もおこなっていながら、レース以外の検査となると、年間 700~800 例にとどまっているのが現状である。その理由の一つは、予算不足である。

獣医学の専門家がアル・ザルーニに対しておこなった調査で明らかになったことは、服用から 28 日経った後にもアナボリックステロイドが馬の器官に痕跡を残している、ということだ。

ニューマーケットの調教師ジョン・ベリー（町会議員でもある）は言った。「このルールをうっかり破ってしまった他の調教師たちは、間一髪で逃れた、ということではないか。」

アル・ザルーニの言葉は「始まりの終わり」だったと BHA は言い、木曜日に、ニューマーケットの第二のゴドルフィン厩舎であるサイド・ビン・スルールのヤードに検査官を派遣した。

「これがレースにおける最後の陽性結果になると思うかって？いや、思わないね。氷山の一角だと思うかって？いや、思わない。」と、BHA の最高経営責任者（CEO）ポール・ビターは言った。

.....

ゴドルフィンとは何者なのか？

・ゴドルフィンは、シェイク・モハメドが設立した競走馬の経営母体で、ドバイとニューマーケットに拠点を持っている。

・1992 年の設立以来、マクトゥーム・ファミリーの競走馬厩舎は、12 カ国で 200 以上のトップレベルの「グループ 1」レースで優勝した。

・ドバイミレニアム、ラムタラ、ファンタスティックライト、ストリートクライも、ゴドルフィン所属のビッグレース優勝馬である。

.....

ゴドルフィンの馬に何が起きているのか？

モールトン・パドックの 210 頭は、ドバイの首長にしてアラブ首長国連邦の副大統領であるシェイク・モハメドが指示するまで、再び走ることはない。サーティファイは、今年の最も重要な時期のレースに出るチャンスを失う。「1000 ギニー」のような、3 歳馬限定の「クラシック」レースに出走できないのだ。サーティファイは、2012 年には 2 回のレース当日検査に合格したのに。

さらに BHA は、15 頭の馬を 6 か月の出場資格停止処分にした。この処分は、厩舎が立ち入り検査を受けた 4 月 9 日から 10 月 9 日まで適用される。

アル・ザルーニが過去に調教した優勝馬について見直しがある可能性は？

アル・ザルーニの系譜に連なる馬には、セントレジャーを 1/25 で制した驚異の馬エンケがいる。エンケは、9 月にドンカスター競馬場で、ミカエル・バルザローナが騎乗して優勝した。その優勝により、クールモア・スタッドの専属調教師エイダン・オブライエンとその息子のジョッキーであるジョセフを打ち負かし、「2000 ギニー」と「エプソムダービー」を制して狙っていた英国クラシックの三冠（1970 年にニジンスキーが達成して以来の快挙になる筈だった）を阻止したのだった。

「エンケは、レース後に検査を受けたが問題はなかった」と BHA のスポークスマン、ロビン・マウンジーは言った。「主要なレースの優勝馬はすべて検査を受けることになっている。アル・ザルーニの馬は、過去にトレーニング中に検査を受けたことがあるが、陽性サンプルはまったくなかった。」

ゴドルフィンの動機は何か？そしてなぜ、夏季にイギリスのニューマーケットに拠点を置く一部の馬が冬季にドバイに行くのか？

アラブ首長国連邦の新聞「ザ・ナショナル」と英国のメディア組織「レーシング UK」の特派員であるジェフリー・リドルは言った。「シェイク・モハメドは気付いたのだ。彼の馬への愛を通して、エリートの競技で世界を相手にするだけでなく、ドバイを世界中に売り込むことができる、と。」

「ゴドルフィンはこれまで 16 カ国で競技に出場しているが、それは常に、可能な限り多くの場所にアラブ首長国連邦の旗を効果的に立てる、というプランの一環だった。

「2000 年代初期から半ばにかけて、“小さいが秀でた”力がより大きく育ってきたあいだに、見た目にははっきりと変化のようなものがあつた。

「調教についてだが、11 月から 4 月までの季節にニューマーケットのギャロップに行くと、まだ暗く、凍るように寒く、痛烈な風が吹き、競走馬にとって完璧な環境とは言い難い。

「これは、ドバイ・カーニバル会議のために馬を送り出したヨーロッパの多くの調教師が言ったことだが、ドバイでは施設が優れ、太陽が顔を出し、サラブレッドが繁殖する条件がそろっている、ということだ。」

.....

マームード・アル・ザルーニとは誰か？

・アル・ザルーニは 37 歳、元は厩舎のグルームで、かつてはゴドルフィンの長期契約調教師サイード・ビン・スルールのアシスタントを務めたこともある。

・アル・ザルーニは、2011 年に英国クラシックを初制覇した。その時の馬ブルーバンティングにはフランキー・デットーリが騎乗、ニューマーケットで「1000 ギニー」に勝利した後、この牝馬はアイリッシュ・オークスでも優勝した。

・アル・ザルーニが手掛けたリワイルディングはロイヤル・アスコットを制し、モンテロッソは 2012 年 3 月に世界最高賞金額を誇るドバイ・ワールドカップで優勝した。

・2012 年 9 月、2 度目の英国クラシック制覇。その時の馬エンケはキャメロットの三冠を阻み、ドンカスター競馬場でセント・レジャーを制した。

.....

アル・ザルーニは今後どうなるのだろうか？

アル・ザルーニの将来。これは、彼が驚くべきメッセージを出すかどうかにかかってくるだろう。ゴドルフィンのレーシング・マネージャーであるサイモン・クリスフォードは、このドバイ出身のトレーナーの行動を「不名誉」と呼んだ。クリスフォードは、かつては「レーシングポスト紙」ニューマーケット特派員だったが、1990 年代初頭のゴドルフィンの初期の頃からの、シェイク・モハメドの忠実な副官である。

アル・ザルーニは 2010 年 3 月に調教師として採用された。彼が言うには、自分の荷物に入れてアナボリックステロイドをドバイからイギリスにひそかに持ち込んだ。何も書かれていない注射器 5 本に薬を満たしていたという。そしてそれらを車の窓ごしに無資格の獣医助手に渡し、馬に注射するよう指示した、ということだ。彼が審問官に語ったところでは、他の動物には飼料にステロイドを混ぜている、ということだ。

アル・ザルーニは、BHA 懲戒委員会の公聴会では法的代理人を立てずに、一連の重大な規則違反を認めた。にも関わらず、「レーシングポスト」のレポートによれば、彼は控訴を検討している。新しい証拠が出てこない限り、これは単に懲罰の重さに対する異議申し立てにすぎないのかもしれない。

ゴドルフィンのサイモン・クリスフォードは、なぜ、調査後のメディア・ブリーフィングで BHA のトッ

プであるポール・ビターと並んでいたのか？

「別々の記者会見を 2 回おこなうよりも、あの場にいたすべての人の目に、後方支援という意味に映っていた。彼らが同じテーブルについているからと言って、彼らが同じ側にいることを示すわけではないが。」とマウンジーは言い添えた。

「それは完全に正常なプロセスであり、我々は他のスポーツからのアドバイスを受けた。」

違反が明らかになった後、なぜこれほど迅速に審理がおこなわれたのだろうか？

アル・ザルーニはすでにドーピングを告白していたから、彼が評決に異議を唱えていた場合よりも、結論が容易なケースではあった。

BHA はこの事件が早急に解決されることを望んだ。馬の将来の見通しが不透明なままでは、今後のレースと賭博市場に影響を与えかねないからだ。そして BHA は、今回のことが、いまだに消えない疑問についてゴドルフィンをより広範に取り調べることの一環である、と懸命に強調している。

シェイク・モハメドは、今回のすべてのことについて、どう考えているのだろうか？

競馬ブロードキャスターであるデレク・トンプソンは、40 年にわたるテレビとラジオのキャリアの中で、シェイク・モハメド・ビン・ラシッド・アル・マクトゥーム殿下を数多く取材してきたが、このスキャンダルによって殿下が「ショックを受けている」にちがいないと確信している。

トンプソンは言った「彼は何よりもまず馬の恋人であり、何をするにせよそれに勝つことを愛しているが、私の意見では、いついかなる時も競技ルールを侵すようなまねはしないはずだ。」

「シェイク・モハメドがエンデュランスの現世界チャンピオンであり、自身が 60 歳を越えていることを認めないかもしれないが、実際にはそのような年齢だ、ということを忘れないでほしい。」

「このような信じがたいほどの身体能力を持っていることは驚異的である。特に、ドバイの統治者と言う彼の責務を考えると特に、1 日 25 時間、週に 8 日は働いていることになるだろう。」

ジャーナリストのリドルはつけ加えた「非常に屈辱的なできごとであったはずだ。モールトン・パドックで手綱を取らせるために選んだ人物は、自らに置かれた信頼を完全に裏切ったのだ。」

エンデュランスとは何か？

エンデュランスには、通常はアラビア馬で 100 マイルのトレッキングがあり、FEI の監督下に置かれている。FEI は別に、オリンピック競技種目である障害飛越競技、総合馬術、馬場馬術も管理運営している。

シェイク・モハメドは、FEI 会長ハヤ王女と結婚している。2009 年には、騎乗したタッハンがアナボリックステロイド検査で陽性となったため、6 ヶ月間の出場停止処分を受けたこともある。

彼の調教師で 1 年間の資格停止処分を受けたアブドラビン・フザイムは、シェイクに知らせずにその薬を投与した、と述べた。

ゴドルフィンのこの話題は、ドバイではどのように語られているか？

「ドバイのメディアは、このニュースの取り扱いに苦慮している。シェイクは単に支配者というだけでなく、彼らの国の大使だからである」とリドルは言った。

BHA は直接シェイクに話したか？

「私は、個人的にシェイク・モハメドと話したことはない。ゴドルフィンのレーシング・マネージャーであるサイモン・クリスフォードを通して、問題を扱ってきた。」とビターは言った。

「我々は、シェイク・モハメドが我々に語りたい時も、我々が彼に語りたい時も、同じ土俵でそれが可能になるようにしてきた。」

「最終的には、調教師が単独で責任を負う。サイモンはゴドルフィン内で多くの責任を持っているので、今まで、私たちとの接点となってきた。」

.....

ゴドルフィンの元トップジョッキー、フランキー・デットーリは、今どこにいるのか？

ミカエル・バルザローナは、エンケに騎乗してセントレジャーに勝利した翌日、徐々に控え騎手の地位になっていたゴドルフィンの元ナンバーワン騎手フランキー・デットーリは、フランスのロンシャン競馬場で薬物検査に陽性反応を示した。デットーリの弁護士は、それが一時的に競技能力を高めるための物質ではないと言ったが、フランス当局がその物質を公式に特定することはなかった。

デットーリは 6 か月間の騎乗停止処分をそろそろ終えるところである。その検査のニュースが登場する前に、彼が 18 年間の栄光の日々に輝いたゴドルフィンを去り、復帰後はフリーランスとして騎乗する予定であることが、発表された。

このカリスマ的な騎手は、昨年、ゴドルフィンが、自分の他に、もっと若いバルザローナとシルベストル・デ・ソウサとジョッキーの契約をした際、自らのポジションが危うくなったと感じていた。

デットーリは、好条件でゴドルフィンを離れたことが報じられた。クリスフォードによれば、ゴドルフィンは、将来的に彼を使うことがあるかもしれない、ということだ。

デットーリは、4 月 6 日にエイントリー競馬場のグランドナショナル（障害競走）に初出場、4 日後にはニューマーケットの調教場で騎乗、5 月 20 日のレスター競馬場でレースに復帰しようと準備している。

.....

なぜ、ジェラルド・バトラーのケースはゴドルフィンにとって違うのか？

アル・ザルーニが獣医の指示なく行動したかのように見えたとしても、彼が獣医の行動によって「サンゲート」（イタリアで製造されたスタノゾロルの調剤薬のブランド名）製品が推奨されたのだ、とバトラ

ーは言った。

陽性サンプルのソースが「EU で認可され、獣医の業務で使用するために合法的に輸入され、その最初の投与は獣医によって推奨されたものであった」ことを BHA は認めている。

バトラーが「インディペンデント」紙に語ったところでは、彼の獣医が最初の投与をおこなったが、彼自身が 4 頭の馬にその薬を与え、怪我を直すために馬の関節に注射した、ということだ。

彼の投薬記録に（承認の）ゴム印を押した、というバトラーの主張に対する BHA の返答は？

「このケースはまだ調査中なので、コメントするのは不適切だろう。」である。

バトラーのケースでの獣医はどうか？

BHA が言うには、獣医の代表者にインタビューした、とのことだが、BBC は法的な理由からその人物の名を明かさない。その獣医は、これまでのところコメントを控えている。

BHA は獣医に対して管轄権を持っているのか？

獣医は、英国競馬の運営組織ではなく、王立獣医師会(Royal College of Veterinary Surgeons)の管轄下にある。

「獣医たちは私たちの規則のもとで認可を受けているのではない。時々そのことは、我々にとって大きなフラストレーションとなる。だからといって、我々が彼らに問い合わせて知恵や情報を引き出すことができない、という意味ではない。」とビターは言った。

「我々は、ジェラルド・バトラーが名指した獣医だけでなく、全国の獣医たちと継続的な議論をしている。」

現在実施されているのは血液検査か？それとも尿検査か？

「血液検査である。重要な点は、検査を実施しているのが BHA だということだ。これは BHA の調査なのだ。」とビターが付け加えた。

「モールトン・パドックで実施されているのも、ビン・スルールの厩舎で実施されているのも、すべての検査は、我々の検査チームがおこなっている。これはゴドルフィンが調べることではない。検査をおこなうのは規定の監督官であり、ゴドルフィンから完全に独立した人間である。」

「我々はゴドルフィンから全面的な協力を得ている、と言われているが、それはこのプロセスを簡単に言いすぎている。」

アナボリックステロイドについての競馬のルールはどうなっているのか？

イギリスの競馬においては、アナボリックステロイドは、いかなる形であれ非合法である。しかし、海外ではこのルールは異なり、オーストラリア、米国、ドバイを含む国々では、競技の場以外では使用が許可されている。ただし、競技当日には、馬の体の組織からこの物質が排出されていなければならない。

オーストラリア人であるビターは、WADA 規程（世界アンチ・ドーピング機関の定める反ドーピングの統一規程）がふさわしいとしている。

規則が変則的であるせいで、英国で調教された馬が、ロイヤル・アスコットなどの大会で海外のライバルと互角に戦えない、という意見もある。

しかし、オーストラリアの調教師ピーター・ムーディーは、彼の引退した記録破りの牝馬ブラックキャビアはアナボリックステロイドを投与されたことはない、と主張した。ブラックキャビアは 25 レースの無敗記録を誇る馬で、2012 年 6 月のアスコットでの勝利もそれに含まれる。

（以上）